

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	関西学研医療福祉学院
設置者名	学校法人青丹学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
社会福祉専門課程	介護福祉学科	夜・通信	1152 時間	160 時間	
医療専門課程	作業療法学科	夜・通信	66 単位	9 単位	
	理学療法学科	夜・通信	43 単位	9 単位	
	看護学科	夜・通信	42 単位	9 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ
介護福祉学科
https://www.seitan.ac.jp/kg/youkou/expense/syllabus/r2_cw.pdf
作業療法学科
https://www.seitan.ac.jp/kg/youkou/expense/syllabus/r2_ot.pdf
理学療法学科
https://www.seitan.ac.jp/kg/youkou/expense/syllabus/r2_pt.pdf
看護学科
https://www.seitan.ac.jp/kg/youkou/expense/syllabus/r2_ns.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	関西学研医療福祉学院
設置者名	学校法人青丹学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.seitan.ac.jp/kg/youkou/expense/rjiichiran.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	法人役員	2018年7月30日～ 2022年7月29日	前職において経理関係をされていたので、その部門での職務を期待
非常勤	会社役員	2018年7月30日～ 2022年7月29日	前職において総務・コンプライアンス関係をされていたのでその部門での職務を期待
非常勤	開業医	2018年7月30日～ 2022年7月29日	医療教育や国家試験対策についての期待
非常勤	法人職員	2018年7月30日～ 2022年7月29日	職務改善、雇用促進、コンプライアンスなどにおいて期待
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	関西学研医療福祉学院
設置者名	学校法人青丹学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表すること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

シラバスでは、この科目で何を身につけることができるのか、受講にあたってどのような準備が必要なのか、学修成果はどのように評価されるのかなど、学生に学びの指針を与え、学びを支援するための情報源であることが求められます。

一方、教員にとってシラバスは、学習内容の順序や評価方法を事前に検討することで計画的な授業の進行が可能になります。各科目の授業内容が情報共有されることで体系的に整合性のとれたカリキュラムを運営できることでシラバス内容の相互点検を行えると考えます。

*本学のシラバスはWEB上等で学外へ一般公開されます。個人情報など学外公開されると支障のある情報は掲載しないよう注意のこと。

各科目毎に開講期、講義概要、到達目標、授業計画、評価方法、教科書、注意事項等のシラバスを作成する。

原則として前年度末までに作成のこと。突発的な状況が起きた場合には開講時期の前の期末までには作成のこと。

授業計画書の公表方法	ホームページ 介護福祉学科 https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/syllabus/curriculum_cw2020.pdf 作業療法学科 https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/syllabus/curriculum_ot2020.pdf 理学療法学科 https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/syllabus/curriculum_pt2020.pdf 看護学科 https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/syllabus/curriculum_ns2020.pdf
------------	--

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定すること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

各学期に科目ごと 100 点満点で行う。

評価は A(80 点以上)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 以上 70 点未満)、および D(60 点未満)。C 評価以上を合格、D 評価未満を不合格とする。

合格点に満たない科目について、また疾病等やむを得ない理由で試験を受けられなかった場合は、再試験または追試験を行う。

当該科目（臨床実習または介護実習を含まない）においては、当該時間数の 3 分の 2 以上の出席、臨床実習または介護実習においては、当該時間数の 5 分の 4 以上の出席がない場合は認定しない。

再試験においては、60 点以上の得点があっても 60 点とし C 評価とする。

追試験においては、得点の 2 割減とした点数で評価する。

3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

当該期間内の履修科目の成績評価を点数化し、その科目の合計点の平均を算出する（100 点満点で点数化）

○平成 31 年度

学科名	学科	学年	1	学生数	名
成績の分布					
指標の数値	～59 点	60～69 点	70～79 点	80～100 点	
人数					
下位 1/4 に該当する人数 人					
下位 1/4 に該当する指標の数値 点未満					

客観的な指標の 算出方法の公表方法	ホームページ https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/sanshutsuhou.pdf
----------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施すること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定の方針

- ・高度な知識と優れた技術の習得により、バランス感覚を持っている。
- ・チーム医療としての一員であることを認識し、協調性があり即戦力を身に着けている。

卒業の要件

- ・各科の教育課程に定められた必修科目を修了し、全ての単位または履修時間が認定されなければならない。
- ・欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超えていないこと。

卒業の認定

- ・卒業の要件を満たした者について、卒業判定会議の議を経て認定する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページ

<https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/sotsu-nintei.pdf>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	関西学研医療福祉学院
設置者名	学校法人青丹学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/taishakumoney2020.3.pdf
収支計算書又は損益計算書	ホームページ https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/shohikeisan2020.3.pdf
財産目録	ホームページ https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/zaisanmokuroku2020.3.pdf
事業報告書	ホームページ https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/jigyouhoukoku2020.3.pdf
監事による監査報告（書）	ホームページ https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/kansahoukoku2020.3.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士
社会福祉		社会福祉専門課程	介護福祉学科	○	一
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類		
2年	昼	1949 時間 単位時間／単位	講義 560 単位時間 /単位	演習 934 単位時間 /単位	実習 455 単位時間 /単位 実験 単位時間 /単位 実技 単位時間 /単位
生徒総定員数		生徒実員 80 人	うち留学生数 57 人	専任教員数 1 人	兼任教員数 5 人
				単位時間／単位 9 人	総教員数 14 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 認知症高齢者、高齢者単身世帯の増加などに伴う介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できるよう、「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の領域別に学習し、生活支援を習得する。
成績評価の基準・方法
(概要) 各学期に科目ごと 100 点満点で試験を行う。 評価は A(80 点以上)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 以上 70 点未満)、および D(60 点未満)。C 評価以上を合格、D 評価未満を不合格とする。
卒業・進級の認定基準

(概要) 各学科の当該教育課程を修了し、すべての科目の単位または履修時間の認定を受けた者とする。 欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超える者は、卒業を認めていない
学修支援等 (概要) 補修学習 個別指導

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
31人 (100%)	0人 (0%)	29人 (93.5%)	2人 (6.5%)
(主な就職、業界等) 介護老人福祉施設 介護老人保健施設 等			
(就職指導内容) 個別指導 就職フェアの引率 就職先の紹介 マナー講習			
(主な学修成果(資格・検定等))専門士 介護福祉士※1 日本赤十字救急法救急員 レクリエーション・インストラクター スポーツレクリエーション指導員 障がい者スポーツ指導員 認知症サポートー 福祉住環境コーディネーター リフトリーダー アロマテラピー検定			
(備考) (任意記載事項) ※1 2017年から2021年までの養成校卒業者については、卒業から5年間、介護福祉士資格が与えられます。その間に「①5年間連続して実務に従事すること」または「②卒業後5年以内に国家試験を受験して合格すること」でその後も引き続き介護福祉士資格を有することができる。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
63人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 体調不良 友人関係		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人、親との面談 退学防止委員会を設置し、退学防止に努めている		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士
医療		医療専門課程	作業療法学科		○	—
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験 実技
3年	昼	3330 時間 単位時間／単位	1950 単位時間 /単位	75 単位時間 /単位	1305 単位時間 /単位	単位時間 /単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120人		108人	0人	7人	7人	14人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 基礎分野・専門基礎分野・専門分野・選択必修科目について講義・演習・実習を行う。臨床実習は1年次8月と10月、2年次8月と10月、3年次は前期にて行う。
成績評価の基準・方法
(概要) 各学期に科目ごと100点満点で試験を行う。 評価はA(80点以上)、B(70点以上80点未満)、C(60以上70点未満)、およびD(60点未満)。C評価以上を合格、D評価未満を不合格とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 各学科の当該教育課程を修了し、すべての科目の単位または履修時間の認定を受けた者とする。 欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超える者は、卒業を認めていない
学修支援等
(概要) 学修困難な学生に対しては個別指導やグループ学習を行い単位取得が達成できるよう支援している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
37人 (100%)	0人 (0%)	36人 (97.3%)	1人 (2.7%)
(主な就職、業界等) 病院（リハビリテーション科・精神科）リハビリテーションセンター 老人保健施設 児童福祉施設 等			
(就職指導内容) 個別相談及び指導 履歴書の書き方 面接試験対策 小論文の書き方 校内就職相談会の開催			
(主な学修成果（資格・検定等）) 専門士 作業療法士国家試験受験資格 レクリエーション・インストラクター スポーツレクリエーション指導員 障がい者スポーツ指導員 福祉住環境コーディネーター			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状					
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率			
115 人	6 人	5.2%			
(中途退学の主な理由) 進路変更					
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別面談 保護者との連絡 三者面談などを必要に応じて行う。					

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	理学療法学科	○	—
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類	
			講義	演習 実習 実験 実技
3年	昼	3315 時間 単位時間／単位	1995 単位時間／単位	480 単位時間／単位 840 単位時間／単位 単位時間／単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数 兼任教員数 総教員数
120 人		98 人	0 人	7 人 15 人 22 人

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 1 年次 : 座学が中心となるが、これから学習する実技の演習などを取り入れ、理学療法および医療・福祉への興味を抱かせるように努めている。また後期から実技を行なう授業があるため、講義と実技を交えて、知識と技術の繋がりなどが理解できるよう努めている。	
2 年次 : 理学療法専門科目が中心となり、講義と演習を交え、知識と技術の向上に努めている。臨床実習を想定した内容の授業も設け、より実践に近い形で教授している。また授業外でも、アクティブラーニングを取り入れた勉強会を行なっている。	
3 年次 : 3 年次の臨床実習に向けたコンテンツを組み、実習で行なう内容を座学、演習、ワークを踏まえて行なっている。また国家試験対策の講義および模擬試験を実施している。	
学修習慣および国家試験対策の一環として、1 年次より授業内で国家試験問題に触れる機会を設け、段階的に意識付けを行なっている。	
成績評価の基準・方法	
(概要) 各学期に科目ごと 100 点満点で試験を行う。 評価は A(80 点以上)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 以上 70 点未満)、および D(60 点未満)。C 評価以上を合格、D 評価未満を不合格とする。	

卒業・進級の認定基準
(概要) 各学科の当該教育課程を修了し、すべての科目の単位または履修時間の認定を受けた者とする。
欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超える者は、卒業を認めていない
学修支援等
(概要) 補講 1・2年放課後全員で勉強会 個別指導など

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他	
31人 (100%)	0人 (0%)	31人 (100%)	0人 (0%)	
(主な就職、業界等) 病院（リハビリテーション科）リハビリテーションセンター 老人保健施設 児童福祉施設 等				
(就職指導内容) 個別指導 履歴書の書き方 面接試験対策 小論文の書き方 相談（マッチング等） 校内就職説明会開催				
(主な学修成果（資格・検定等）) 専門士 理学療法士国家資格受験資格 レクリエーション・インストラクター スポーツレクリエーション指導員 障がい者スポーツ指導員 福祉住環境コーディネーター				
(備考) (任意記載事項)				

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
109人	8人	7.3%
(中途退学の主な理由) 心身の病気、経済的理由、単位不認定など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面談、学修支援（補講等）、退学防止委員会の開催		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士
医療		医療専門課程	看護学科		○	—
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
3年	昼	3000 時間 単位時間／単位	1845 単位時間 /単位	90 単位時間 /単位	1035 単位時間 /単位	30 単位時間 /単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120 人		123 人	0 人	9 人	13 人	22 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 1年次：医学の基礎知識を広く学ぶとともに、看護の基本的な知識・技術を修得します。さらに、社会人として必要な教養を身につけます。
2年次：対象に応じたより専門的な看護や、社会保障制度について学びます。基礎看護実習では学内習得した看護技術を臨床の場で実践します。
3年次：領域別実習を病院・施設で行います。実際に患者さまを担当して、看護の判断力・実践力を高めます。後期には3年間の総括となる看護研究発表を行います。
成績評価の基準・方法
(概要) 各学期に科目ごと 100 点満点で試験を行う。 評価は A(80 点以上)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 以上 70 点未満)、および D(60 点未満)。C 評価以上を合格、D 評価未満を不合格とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 各学科の当該教育課程を修了し、すべての科目の単位または履修時間の認定を受けた者とする。 欠席日数が出席すべき日数の 3 分の 1 を超える者は、卒業を認めていない
学修支援等
(概要) ・補習講義、個別面談、個別指導、科目別対策勉強会 ・卒後教育支援

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
38人 (100%)	0人 (0%)	33人 (86.8%)	5人 (13.2%)
(主な就職、業界等) 病院 診療所 老人保健施設 等			
(就職指導内容) 個別指導 学外就職説明会案内			
(主な学修成果（資格・検定等）) 専門士 看護師国家試験受験資格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状					
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率			
123人	2人	1.6%			
(中途退学の主な理由) 進路変更 心身の病気					
(中退防止・中退者支援のための取組) ・面談・学修支援（個別指導、補講など）退学防止委員会の開催					

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
介護福祉 学科	200,000円	900,000円	100,000円	その他は施設整備費として
作業療法 学科	600,000円	1,000,000円	1年次 350,000円 2・3年次 250,000円	その他は施設整備費として
理学療法 学科	600,000円	1,000,000円	1年次 450,000円 2・3年次 350,000円	その他は施設整備費として
看護学科	250,000円	700,000円	200,000円	その他は施設整備費として
修学支援 (任意記載事項)				
• AO入試：①前期(5/24～8/23)②中期(9/13～9/27)初年度授業料の一部減免①10万円 ②5万円 • 一人暮らし応援制度：初年度授業料の一部減免 5万円 • 部活動特典：在学中3年間継続し、評定平均3.0以上。初年度授業料の一部減免 5万円 • ライセンス特典制度：本校が定める資格を高校在学中に取得。初年度授業料の一部				

減免 3 万円

- ・家族紹介制度：親、兄弟・姉妹が本学園卒業生。入学金の半額減免
- ・青丹紹介制度：本学園卒業生より紹介を受ける方。入学金の一部減免 2 万円

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/jikohyouka_2020.pdf

学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）

「専修学校におけるガイドライン」に掲げられた項目について、各学校関係者評価委員が評価点を出し、その平均点を評価点としている。

主な評価項目

- ・理念・目的・育成人材像は定められているか
- ・運営方針は定められているか
- ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
- ・資格取得率の向上が図られているか
- ・就職に関する体制は整備されているか
- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- ・法令、設置基準の遵守と適正な運営がなされているか

など

評価委員会の構成 委員の定数 4 名以上 7 名以内

企業（医療福祉関係）、保護者、卒業生、地域代表 等

評価結果の活用方法

- ・評価の内容については、教職員会議にて公表し、学校法人の方針・目的として全職員が協働して、目的達成すべく業務を遂行している。

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
外部法人役員	2020 年 4 月 1 日～ 2022 年 3 月 31 日	業界代表（歯科医師）
外部法人職員	2020 年 4 月 1 日～ 2022 年 3 月 31 日	業界代表（看護師）
外部法人職員	2020 年 4 月 1 日～ 2022 年 3 月 31 日	保護者代表
外部法人職員	2020 年 4 月 1 日～ 2022 年 3 月 31 日	卒業生代表
外部 NPO 法人役員	2020 年 4 月 1 日～ 2022 年 3 月 31 日	地域代表

学校関係者評価結果の公表方法

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/seitan_value2020.pdf

第三者による学校評価（任意記載事項）

一般社団法人リハビリテーション教育評価機構より評価、認定

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.seitan.ac.jp/kg/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当

したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
		年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目的単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人	人
計	人	人	人	人
(備考)				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月末満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月末満の停学	人
訓告	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
		年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	人	人	人
G P A等が下位4分の1	人	人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	人	人	人
計	人	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。